

BPA と紙のレシートを気にするべきでしょうか？



Steven Hentges, Ph.D

2020年11月4日(水)

Posted in SAFETY

この前、薬局や食料品店に行った時、購入した商品と紙のレシートを持って帰ったことがあるでしょう。また、紙のレシートには、レシート表面の熱反応性コーティングの成分としてビスフェノール A(BPA)が含まれているため、紙のレシートは有害であるという論文を読んだことがあるかもしれません。

しかし、特に最近では、あなたが読んだことがすべて真実であるとは限りません。結論を急ぐ前に、懸念すべきかどうかの判断材料となる事実を見てみましょう。今日の感熱紙レシートに BPA が含まれる可能性があるかどうか、また、BPA が含まれている場合は有害かどうかを個別に判断することができます。

感熱紙レシート中の BPA に関する最新情報は、まさにこのトピックに関する最近公開された論文からのものです。「[Environmental Pollution](#)」誌に掲載されたこの論文は、6大陸39か国のさまざまな消費者がいる場所(スーパーマーケット、レストラン、ショップ、ガソリンスタンドなど)から収集したレシートの分析について説明しています。米国の東側と西側の両方の4つの州で収集されたレシートも含まれています。

驚くべきことに、あるいはそうでないのかもしれませんが、米国で収集したどのレシートからも BPA は検出されていませんでした。米国のすべてのレシートを分析したわけではないので、この分析結果は完全に決定的なものとは言えませんが、米国にいる人は感熱紙レシートに BPA が含まれているという報告を心配する必要はないということを強く示唆しています。

考えられる懸念を完全に退ける前に、もし米国の感熱紙レシートに BPA が含まれていたら心配すべきでしょうか？ BPA は地球上で最も集中的に研究されている化合物の一つであり、この疑問も信頼できる研究で解決することができます。

特に関連性の高い 2 つの研究は、BPA を含むレシートを扱った後のレジ係の BPA 曝露を測定したものです。BPA 含有のレシート紙を時々しか扱わない消費者に比べて、レジ係は勤務中ずっと高レベルの BPA に曝露している可能性があります。

フィンランド産業衛生研究所(Finnish Institute of Occupational Health)が実施した [1 番目の研究](#)では、ボランティアが勤務シフト中ずっと BPA を含有するレシートを扱うことで、レジ係としての仕事を模倣しました。米国国家毒性プログラム(U.S. National Toxicology Program)が実施した [2 番目の研究](#)では、実際のレジ係が BPA を含むレシートを扱いました。いずれの場合も、BPA 曝露量は許容安全レベルを遥かに下回っており、一般の人々が経験している低いバックグラウンドレベルの BPA と同程度でした。

これらの研究は、包括的データセットに基づいた BPA の安全性に関する食品医薬品局(FDA)の評価の結論を裏付けています。FDA のウェブサイトで簡潔に述べられているように：[「BPA は安全ですか？ はい。」](#)その結論に加えて、最近の情報は、感熱紙レシート中の BPA について懸念する必要がないことを示しています。